

各設問の「その他」の記述内容

●「Q4 農業をしている理由をお聞きします」の「その他」の回答

- 中野地区 75～84 歳 近親者に食べてもらう。
- 中野地区 65～74 歳 雑草を刈っている。(貸していない畑)
- 中野地区 65～74 歳 放っておくと草だらけになり近隣に迷惑となる。
- 中野地区 75～84 歳 本業のかたわら農業をやってきたが高齢のためやめた。
- 中野地区 75～84 歳 養子であり義父の借土地保つ。
- 中野地区 55～64 歳 畜産業を営んでいる。飼料製造業を有効利用するために地域循環のため。
- 中野地区 65～74 歳 トラクターに乗りたいから。
- 中野地区 75～84 歳 他人に迷惑かけないようにするため。
- 中野地区 85 歳以上 健康対策
- 中野地区 65～74 歳 土地があるから。
- 日野地区 85 歳以上 今は農業をしていない。
- 日野地区 65～74 歳 一部は収入を得、残りは農地を守って行く。
- 日野地区 65～74 歳 草で荒れるのも困るので自家用野菜作りのため。
- 延徳地区 65～74 歳 働ける間は農地を荒らさないため。
- 延徳地区 85 歳以上 買ったり借りてくれる人がいない。
- 延徳地区 65～74 歳 荒らしておく周りの農家に迷惑がかかるから。
- 延徳地区 75～84 歳 病気のため自家用野菜畑5aのみ耕作
- 延徳地区 85 歳以上 自家用野菜
- 延徳地区 75～84 歳 健康維持のため、暇つぶし
- 延徳地区 55～64 歳 自分ではできないのでほとんど貸せるだけ貸している。
- 平野地区 75～84 歳 自家用野菜栽培
- 平野地区 65～74 歳 農作物の自給及び一部収入を得るため。
- 平野地区 55～64 歳 土地があり一部人に貸している。
- 平野地区 55～64 歳 農地全てを貸していないが農業はしていない。
- 高丘地区 65～74 歳 耕作放棄地にしないため。
- 高丘地区 55～64 歳 一人になったときに草刈りを人にかけてもらう。
- 長丘地区 65～74 歳 自家用野菜程度でほとんど利用なし。
- 長丘地区 75～84 歳 生きがい、お得様の要望に応えるため。
- 平岡地区 65～74 歳 後継者が育っている。
- 平岡地区 65～74 歳 後継者が農業をやるまで。
- 平岡地区 75～84 歳 生活する上の生きがい。
- 科野地区 75～84 歳 5 人家族で野菜も買うと高いため、自作している。
- 科野地区 55～64 歳 仕方なく。
- 科野地区 45～54 歳 土地があるから。
- 科野地区 45～54 歳 体調不良によりできない。
- 科野地区 65～74 歳 健康維持、多少の収入
- 科野地区 85 歳以上 家の前に1反部ほど。
- 倭地区 65～74 歳 農業者とコミュニケーションが取れる。
- 倭地区 55～64 歳 昔から先行投資になり資金回収
- 倭地区 85 歳以上 87 歳で仕事ができない。
- 倭地区 45～54 歳 近隣に迷惑がかかるので仕方なく。
- 豊田地区 65～74 歳 自分が動ける間だけ頑張る。
- 豊田地区 44 歳以下 1、3、4、5あてはまる。
- 豊田地区 65～74 歳 高齢のため。
- 豊田地区 55～64 歳 自給自足、自ら作りおいしく食べたい。
- 豊田地区 65～74 歳 家庭菜園程度
- 豊田地区 55～64 歳 屋敷の利用

●「Q8農地・施設の規模縮小や農業をやめるとした理由はどれですか？」の「その他」の回答

- 中野地区 75～84 歳 畑までの通路が整備されていない。
- 中野地区 45～54 歳 両親の高齢化
- 延徳地区 75～84 歳 市外に子供がいるが農業を継ぐ気がない。
- 延徳地区 75～84 歳 もう4～5年後に農業をやめる。
- 平野地区 55～64 歳 農業をやったことがないため次世代がいない。
- 長丘地区 55～64 歳 千曲川が増水すると田が水没するので田を縮小したい。
- 長丘地区 85 歳以上 自家用野菜のみ。
- 科野地区 85 歳以上 進入路がない。
- 科野地区 65～74 歳 休耕地が多い。
- 豊田地区 65～74 歳 畑がなくなる。
- 豊田地区 65～74 歳 上今井は問題が多すぎる。

●「Q14あなたが農業を行っていく、または始める上で、困っている事や問題になっていることはなんですか？」の「その他」の回答

- 中野地区 44 歳以下 知識がない。
- 中野地区 75～84 歳 50 年以上借地は解放すべきである。
- 中野地区 75～84 歳 子供が定年後と言っている。
- 中野地区 44 歳以下 周辺の農家が減り荒廃地が増えている。その際の田畑転換の手間がかかりすぎる。
- 中野地区 85 歳以上 高齢
- 中野地区 65～74 歳 重労働
- 中野地区 85 歳以上 軽トラが通れない。
- 中野地区 75～84 歳 畑かん代が高い、土地改良区から抜きたい。
- 中野地区 45～54 歳 農業での収入では生活困難
- 日野地区 65～74 歳 特になし。
- 日野地区 55～64 歳 病気

- 日野地区 65～74 歳 道が狭く車がスムーズに入れない。
- 日野地区 85 歳以上 高齢者で 85 歳以上です。
- 延徳地区 55～64 歳 ノウハウがない。会社の定年が60～70 歳に延び、高齢化しているため、新たに始めるには勇気と資金が必要
- 延徳地区 65～74 歳 雑草対策追いつけない。
- 延徳地区 65～74 歳 傾斜地等で作業効率が悪い。
- 延徳地区 45～54 歳 山間地なので周りが荒れすぎている。平らな土地だけでなく山間地にも農業政策に力を入れて頂きたい。庭うるしがあるものすごい勢いで増えています。除去する対策を考えて頂きたい。
- 延徳地区 85 歳以上 農業
- 平野地区 85 歳以上 89 歳では農業を続けられない。
- 平野地区 75～84 歳 本人高齢で農業つらい、後継者勤務で継続できるか心配
- 高丘地区 55～64 歳 近隣所有者への配慮が増加している。SS散布、道路に少し出た果樹の枝を除去など、近隣対策が増している。
- 高丘地区 65～74 歳 今は人に貸しているの自分ではやらなくていいので、現状に問題ありません。(親の代では、果樹をしていましたが、自分達ではやっていく自信がありません。)
- 高丘地区 65～74 歳 荒れ地にしている。貸付できる状態でなく処分したい。
- 高丘地区 75～84 歳 自分の代で農業終了
- 高丘地区 55～64 歳 隣接地に荒廃園があり農業がしづらい。
- 長丘地区 65～74 歳 固定資産税が払えない。
- 長丘地区 65～74 歳 農業がしづらい場所のためやりたくない。農道なし、傾斜地。
- 平岡地区 65～74 歳 特になし。
- 平岡地区 55～64 歳 身体のおとろえ。
- 平岡地区 65～74 歳 農業に対する技術がない。ノウハウがない。農業は難しい。
- 平岡地区 75～84 歳 隣接する木の枝、作物が自分の土地に出たり落ちたりするので困っている。指導してほしい。農道に木が出ていて通行に障害を与えている切断指導をしてください。

- 平岡地区 55～64 歳 土地改良の賦課金、畑かんの賦課金が高い。
- 平岡地区 65～74 歳 全て外してある。
- 平岡地区 45～54 歳 人的被害、盗難、除雪等
- 平岡地区 55～64 歳 農地周辺の宅地化、農振区域外の農地への補助事業がない。
- 科野地区 85 歳以上 進入路等の条件が悪い。
- 科野地区 55～64 歳 収入が上がれば税金が高い、周囲園地が荒れ、病虫害をまき散らしている。
- 科野地区 85 歳以上 キノコの品種改良に再挑戦すべき。
- 科野地区 55～64 歳 近隣農地が荒れて、病虫害が発生している。
- 科野地区 75～84 歳 もうからないので。
- 科野地区 65～74 歳 荒廃地対応が減耕作地に影響する。
- 倭地区 65～74 歳 農地に行けない。農道がない。
- 倭地区 65～74 歳 畑かんの維持管理と利便性について。
- 倭地区 85 歳以上 太陽光発電の申し出があれば貸したい。
- 豊田地区 65～74 歳 病気のため。
- 豊田地区 65～74 歳 治水対策により農地がなくなる。
- 豊田地区 65～74 歳 農業は始めない。
- 豊田地区 75～84 歳 公立の売買仲介機関を設け、耕作放棄地売却推進する。
- 豊田地区 55～64 歳 40 年以上も荒地地なので何とかしたい。
- 豊田地区 75～84 歳 4m道路で通り抜けできるため収穫直前にドロボーが去年ひどかった。
- 豊田地区 65～74 歳 農業をやる気がない
- 豊田地区 55～64 歳 りんごの価格が安すぎる。
- 豊田地区 55～64 歳 小作料、年貢を貰っていない。
- 豊田地区 65～74 歳 農業法人化し委託
- 豊田地区 75～84 歳 一人なので生きている間だけ荒らさないようにする。
- 豊田地区 65～74 歳 機械を揃えたが農地が

ない。

- 豊田地区 55～64 歳 農地はあるがほったらかしてあるが、その項目がない。

●「Q16今後の集落・地域の農業者はどのようにすべきとお考えですか？」の「その他」の回答

- 中野地区 75～84 歳 農業の魅力発信を行い、就農希望者と成果発信を毎年実施し、農業人口を高める。移住を含む現状制度の改善を図る。
- 中野地区 75～84 歳 地主は隣接地に草木が入らないように水路、動物等が入らないようそれぞれ管理を。
- 中野地区 75～84 歳 子供の考えにまかせる。
- 中野地区 75～84 歳 農地解放すべきです。(50 年以上借地年間借地代が大変ですよ。)
- 中野地区 55～64 歳 果樹作りには最適な地域なので存続して守っていかなければならない。
- 中野地区 55～64 歳 農業者、JA、市が一体となる協議会が、労力、技術、経営、販売について、3年、5年、10 年の計画を作成して発表し、賛同者を持って新組合を結成。上記2から5を総合的に実施する。
- 中野地区 75～84 歳 地域(地質、気候、水系等)にあった作付け物の選定(世の中には多くの農作物があります。新たな物を探す)、法人化する。土地及び資金の投資型特殊性とする。土地の地形等の環境を農作物にあった物に改良する。当面労働力は株主の全員参加を基本とする。(皆が自分に出来ることをする。)利益を上げ魅力ある農業形態を確立する。若い参加者又は新しい参加者を募り委譲する。早期の着手が成否のカギとなります。参加者が少しでも若いうちに始めたい。
- 中野地区 65～74 歳 もうかれば、シャインのように皆農業をやるようになる。
- 中野地区 75～84 歳 地球規模の気候変動で食料不足に備えることをみんなで考える。
- 中野地区 85 歳以上 どうするかわからない。
- 日野地区 65～74 歳 現状で行う。
- 日野地区 55～64 歳 販売面におけるスーパ

- 一業界の赤字体質の影響をまろにかぶる点と、気象状態が極端な変化を繰り返す点が大きな問題点であり、農業が産業として成立不可能の芽も出てきている。この点に対し、どのような対応が可能なのか、従来の考え方から一旦離れて分析する必要があると考えます。
- 延徳地区 85歳以上 収益性のある新規作物、作型を考え、さらに新規就農者を増やす。
 - 延徳地区 65～74歳 果樹栽培をブドウに全員で分担して農業を行う。
 - 延徳地区 75～84歳 ①小規模農家は農地購入が出来ないので、その制限を取っ払いすべき。②現在、土地改良区地域の農地は転用不可となっているが、後継者不足で将来耕作放棄地で荒れ地が増える可能性大であり、それを防ぐためぜひ、農地転用以外でも許可をすべき。
 - 平野地区 75～84歳 市街化が進み、畑カンの除外をスムーズに出来るようにしていただきたい。又畑カンが今後貸し借りの障害となる。行政としても根本的見直し検討をすべきである。
 - 平野地区 65～74歳 農業の大切さを子供達に伝え後継者を増やす。又、生活の保障もし、農業で食べて行けるようにする。農業は生きる基本、日本の自給率が30台ということをしっかり踏まえて、対策が必要と思われる。このままだと必ず飢饉が来ると思われる。
 - 平野地区 65～74歳 買い取ってほしい。
 - 平野地区 75～84歳 後継者がいないのでわからない。
 - 平野地区 55～64歳 わからない。
 - 平野地区 65～74歳 わからない。
 - 平野地区 65～74歳 東江部は移住の方々が多くなり、一方農業者は減るばかりです。移住の方々に自家用の野菜など作るための農地を貸し出すことができませんか。多少なり耕作放棄地を減らせる。
 - 平野地区 45～54歳 農業の安定化は国の安全保障と行政が考えてほしい。
 - 平野地区 75～84歳 委託者にメリットが少なく特にない。
 - 高丘地区 85歳以上 わからない。
 - 高丘地区 75～84歳 新規就農者を積極的に受け入れる。
 - 高丘地区 85歳以上 ソーラー施設や遊水地として有効活用していただきたい。
 - 高丘地区 55～64歳 宅地へ転用できる場所は宅地等へ転用する。
 - 高丘地区 55～64歳 兼業農家への支援策を検討。畑かんの解散
 - 高丘地区 75～84歳 今3反のうち半分を人に貸しているが、そのまま続けて欲しい。
 - 高丘地区 75～84歳 若者が魅力ある安定した収入が得られる農業に転換していく。
 - 高丘地区 55～64歳 農地は開発地として売り耕作放棄地をなくす。
 - 長丘地区 55～64歳 わからない。
 - 長丘地区 65～74歳 レンタル農園、ふれあい農園、市民農園等に利用活用
 - 長丘地区 65～74歳 農地集積と集落営農組織を同時に実施する。
 - 平岡地区 55～64歳 法人等の参入は良いが、自作農の保護はすべき。
 - 平岡地区 55～64歳 管理されていない遊休地が目立つ。隣地で規模拡大したい方もおられるので、農業委員会は耕作放棄地の仲介ではなく借用したい方への積極的な働きかけを行ってほしい。放任地は市が管理するぐらいなことをしないと減らない。把握だけではだめだ。
 - 平岡地区 65～74歳 アシストスーツ等の活用による作業労務軽減
 - 平岡地区 65～74歳 政治判断が必要
 - 平岡地区 65～74歳 一概に言えない。
 - 平岡地区 65～74歳 後継者の花嫁不足問題
 - 科野地区 75～84歳 わからない。
 - 科野地区 55～64歳 わからない。
 - 科野地区 45～54歳 30年後くらいに日本が国際的に衰退するから農業の働き口がなくなる。
 - 科野地区 55～64歳 山際は原野に、その分里の農地を融通しあう。
 - 科野地区 85歳以上 わからない。
 - 倭地区 65～74歳 農業者を増やす努力をすべきだ。
 - 倭地区 75～84歳 後継者がいなくていつまで続かわからない。
 - 倭地区 55～64歳 放棄地が鳥獣の巣になって困る。

- 倭地区 65～74 歳 自給率を上げる取組をすべきである。
- 倭地区 65～74 歳 今のところ良い考えがない。
- 倭地区 85 歳以上 小石と石塚で小面積畑が多い。
- 倭地区 55～64 歳 現状、やりようがない。
- 倭地区 65～74 歳 集落により法人化
- 倭地区 65～74 歳 耕作放棄地は増えるばかりで、道路は草刈りもされていない。もっと市が全体でとりくむべき。
- 倭地区 75～84 歳 1～4に該当
- 豊田地区 65～74 歳 不在の後継者意見が分からないため、集落としてどうなるか決まらない。
- 豊田地区 55～64 歳 集落での話合いが必要
- 豊田地区 75～84 歳 後継ぎも未婚で年なので、決めなくてはいけない。
- 豊田地区 65～74 歳 治水対策により農地がなくなるため、確保が必要
- 豊田地区 65～74 歳 中野市には生活が少ないのでお答えしない。
- 豊田地区 55～64 歳 新規就農しやすい環境を整える。農地を借りたい人がスムーズに借りられる様にする。
- 豊田地区 65～74 歳 農業による収入安定と楽しく暮らせる集落
- 豊田地区 75～84 歳 日本語学校を設立して若い外国人後継者を養成する。
- 豊田地区 65～74 歳 耕作条件の悪いところは林野へ戻す。
- 豊田地区 75～84 歳 どう頑張っても後 10 年でできれば？
- 豊田地区 55～64 歳 公社化した受託組織をつくり、行政のテコ入れを受けながら荒廃地をなくすような取組が必要。特に中山間地の水田では早急な取組が必要
- 豊田地区 55～64 歳 年金が少なくても長生きしたい。
- 豊田地区 55～64 歳 若い人たちは農業との接触もなく(少なく)、小さな頃から田畑も知らない(行かない)から農業に関心、興味もない。教育として(小学校、中学校等)農業授業としてはどうだろうと思う。年間通して農業を学ぶ。
- 豊田地区 65～74 歳 農産物が安すぎる。農業者が減っていく。
- 豊田地区 75～84 歳 放棄地を再耕し後継者を養成(自給率を上げるべきです。)
- 豊田地区 85 歳以上 意欲ある農業従事者に貸し、農地を維持
- 豊田地区 55～64 歳 就農希望者に向けた地域を宣伝する。
- 豊田地区 55～64 歳 農業を個人が行うのではなく企業化していく。

